

はっぽう

議会だより

巡回バス乗り換えなしで能代市へ
愛称は「はれやか」に決定！
(関連記事 5 ページ)



**12月
定例会**

- 12月定例会…………… 3 ページ～
ハタハタ館改修工事、埴川小解体調査費など
- 町政を質す 一般質問 6 名が登壇 …………… 7 ページ～
- 全員協議会 町の財政の見通しは？ …………… 14 ページ
- レポート 常任委員会が先進事例を探る …………… 16 ページ
- 起こす継ぐ「はっぽう農園」 …………… 20 ページ

起こす
継ぐ

町の産業を担う
若手経営者たち

第11回

農事組合法人 はっぽう農園

代表理事 ^{よし} 芳平 ^{ゆう} 裕太さん

芳平さんは、青森県で医薬品卸業の会社員として勤務していましたが、農業への思いを抱き、一から挑戦することを決意し、平成25年に八峰町へ新規就農を目指して移住しました。



当初は個人で営農していましたが、平成29年に峰浜地域の同年代の農業仲間3人と共に農事組合法人「はっぽう農園」を設立し、令和7年1月から代表理事を務めています。

「はっぽう農園」は、地域農業の未来を担うべく設立された法人で、日本の農業が直面する生産人口の減少や耕作放棄地の増加といった課題に、少しでも貢献することを目指しています。メンバーの平均年齢は42歳とまだまだ若手ですが、水稻・そば・野菜類を主に栽培しています。地域産業の一つである農業を守り、大切な農地を預かるという責任を持ち、営農活動に取り組んでいきたいと考えています。

一昨年の集中豪雨では7haに及ぶ耕作地が被害を受け、本当に自然相手の仕事という過酷な環境を体現し勉強させられた一年でした。地域の皆

が被害にあい、悲しかったし、くじけそうな気持ちになったそうですが、地域の皆さんやJA、八峰町からの支援を頂き、どうにか乗り越えることができたと話してくれました。また、昨年は幸運にも皇室へ「あきたこまち」を献上する栄誉を得るなど、「決して諦めない、自分に負けない心」を胸に今年も気持ち新たに作付けを行い、町の「ふるさと納税」への米の提供も実現し、メンバー全員が今後の営農活動に向けてさらに意欲が高まっています。

今後の目標を聞くと、「我々は先人方の苦勞の上で仕事をしているという事を決して忘れず、地域の発展と農地の保全、継続的な営農を実現する」とのこと。

これからも地域の皆様や関係者の方々から愛のある叱咤激励を糧に、地域に恩返りする経営を目指し、その思いを胸に、「町民として企業として住んでいる町の未来に、微力ながらも役に立てれば」との強い意志で語ってくれました。

(取材：山本 優人)

住 所 〒018-2503
秋田県山本郡八峰町峰浜字豊後長根25-3
電 話 0185-74-7790
FAX 0185-74-7791
メール happou_aguri@hotmail.com

● 議会広報編集委員会
委員長 山本 優人
副委員長 奈良 聡子
委員 伊藤 笠原 吉範
委員 見上 政子

(記 見上 政子)
年末からまとまった降雪があり、自然の営みが普通に見えなくなることには安堵感を覚えます。白銀は子どもを始め私たちをワクワクさせてくれます。ウクライナの「てぶくろ」やイギリスの「くまのプーさん」など、海外では冬を題材にした絵本がたくさんあります。その中には登場する動物はクマが多いのではないかと思っています。ヨーロッパと事情が違いますが、日本で目にするのは里山を歩いたり、市街地を逃げ惑う熊です。今冬は雪にくるまうてぐっすり眠ってほしいものです。山奥に熊の楽園をつくったり、人間と棲み分けした山の整備が必要です。「ミズ」など山菜採りに行けなくなつて久しくなっています。

編集後記



補正予算の変更額

	今回補正額(増額)	合 計
一 般 会 計	7688万9千円	67億7356万7千円
・ 給与改定に伴う人件費の増額 ・ 旧埴川小アスベスト調査委託料		
・ 新規就農者支援関係200万円 ・ 三ツ森コミセン整備111万円 ほか		
介 護 会 計	3984万4千円	13億9782万4千円
・ 介護サービス給付費の増額 ほか		
沢 目 財 産 区 会 計	ゴルフ場再開準備支援金として500万円を措置	
その他、特別会計などの補正予算 4 件		

ゴルフ場再開準備支援は適切か
議会から町へ(質疑)
質問 企業の自己資金のみで行うべき。支援するとしても、沢目財産区会計から一般会計に

見上 特別職や議員の手当は、人事委員会の勧告の例には当てはまらなと考えるため反対。
(賛成多数で可決)

12月定例会
ダイジェスト

補正予算	条例
7件	5件
工事	その他
2件	1件
陳情	意見書
6件	2件

12月定例会(12月11日〜13日)では、条例改正や補正予算など15議案を審議し、すべての議案が可決されました。

巳年の新年を迎えて

明けましておめでとうございませう。
年末年始の長い休暇の中で穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年は能登半島地震による津波や火災の発生、そし



八峰町議会議員 皆川 鉄也

て日本航空エアバスと海上保安庁の航空機の衝突事故など、慌ただしい年始でありましたが、本年は穏やかにご家族揃って新年をお迎えのことと思います。
国外に目を向けるとロシアのウクライナ侵攻やイスラエルによるガザ等への攻撃と、終わりの見えない対立が続いております。また、アメリカ大統領選挙ではトランプ前大統領が選挙に勝利し、アメリカ第一主義を唱えており、お隣韓国では大統領の内乱容疑による強制捜査が行われるなど、我が国の外交の先行きが懸念されます。
国内においては、昨年10月に行われた衆議院選挙に

おいて長く続いた自民党・公明党の連立政権が過半数割れになり、厳しい政権運営が続いております。補正予算や115兆円超の新年予算審議など、合意形成が困難な状況になっており、これらは国民生活に大きな影響を与えるものであり、今後が注目されるところであります。
県内においては、4期16年続いた佐竹敬久知事は任期満了で退任することを表明しており、新しい知事が誕生することになります。少子高齢化による人口減少や産業振興など、大きな課題が多い中、前副知事と県議会副議長が立候補を表明しており、成り行きが注目されます。

さて、八峰町、人口減少が続く中にある持続可能なまちづくりを推進しなければなりません。持続可能なまちづくりには足腰の強い地場産業の育成と確立が必要と考えます。幸いにして本町には恵まれた農地と広大な日本海があります。国では令和の日本列島改造

論や地方創生の強化などが論じられております。生薬やシイタケ、ネギ栽培などの若手農家による複合経営も進んできており、漁業においても輝サーモンやアカモク等、育てる漁業による漁業振興を図っていかねばなりません。
我々議員も残された期間がわずかになってまいりましたが、町当局と力を合わせ、また町民の皆さんからのご指導、ご協力をいただきつつ、与えられた期間での更なる精進をお約束し、新年のご挨拶といたします。

八峰町議会副議長	山本 優人
議員	笠原 吉範
	伊藤 一八
	奈良 聡子
	芦崎 達美
	水木 壽保
	菊地 薫
	腰山 良悦
	見上 政子
	須藤 正人
	門脇 直樹
(議席番号順)	

繰入れして観光振興費から企業支援の名目で処置しては。

財産区の安定運営につながるため支援

答弁 ゴルフ場用地を有する田中自治会の要望を受け、財産区管理会で支援を決定。円滑な営業再開が貸付料収入など財産区の安定運営に資することから直接支援する。
(全員賛成で可決)



アスベストがある場合は、ばく露・飛散防止対策が必要となる



再開準備中のゴルフ場

一般議案

職員・特別職・議員の

ボーナス(期末手当)など増額

議案の内容

○秋田県人事委員会の給与改定の勧告を受け、公民較差を解消するため職員の給料および手当を引上げ。
(全員賛成で可決)

○町長・副町長・教育長・議員の期末手当を職員の手当引上げに合わせ、支給割合を増額。

反対討論

見上 特別職や議員の手当は、人事委員会の勧告の例には当てはまらなと考えるため反対。
(賛成多数で可決)

須藤議員と菊地議員が県自治功労者表彰を受賞

須藤正人議員と菊地薫議員が、長年にわたり地方自治に貢献した方に授与される「地方自治功労者表彰」を受賞しました。

須藤議員は平成7年に43歳で初当選し29年と半月、菊地議員は平成3年に39歳で初当選してから28年9カ月、旧八森町議会から現在に至るまで議員活動を通して地方自治の発展に尽力されました。

※基準日 令和6年10月31日

(左：須藤議員、右：菊地議員)



3月議会定例会お知らせ

会期(予定)	3月 5日(水)	本会議1日目 行政報告、予算編成方針、議案審議ほか
	3月 7日(金) ～14日(金)	予算特別委員会 令和7年度予算をチェック!!
	3月17日(月)	本会議2日目 一般質問
	3月18日(火)	本会議3日目 一般質問 ※休会の場合あり
	3月19日(水)	本会議4日目 予算特別委員会の審査報告、議案審議ほか

※開会は10時からです。終了時間は議案数、一般質問者数、進行等によるため未定です。
※議会では町民の生活に直結した重要な問題が審議されております。どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。また、団体での傍聴を希望する場合は議会事務局へご連絡ください。
(問い合わせ：議会事務局 76-4607)

今月の表紙

巡回バス、能代へ



昨年10月から、乗り換えなしで能代市へ行けるようになりました。利用者の方にお話を伺いました。

いつもは車を運転して通院しているけど、今朝は雪が降ったので初めて巡回バスに乗った。(岩館地区 女性)

いとくの店内でバスを待つことが出来て、とてもいい。(大沢地区 女性)

奨学金の貸与額を月5万円に増額

議案の内容

○物価高騰で授業料や生活費の増加が見込まれるため、大学生などの毎月の貸与金額を4万円から5万円に増額する。

議会から町へ(質疑)

質問 借りる金額が増えるが償還可能と見込んでいるか。地元で就職した場合の、償還猶予や助成は。

答弁 奨学金選考委員会で償還を不安視する声もあったが、子どものよりよい学校生活を重視し、増額提案。町に居住・就職する場合は補助金の制度がある。(全員賛成で可決)

ハタハタ館温泉設備改修費504万円増額し変更契約

議案の内容

○経年劣化に伴うハタハタ館の温泉設備の改修において、当初見込んでいなかったタイルの割れや腐食が確認されたため、追加工事を行う。

議会から町へ(質疑)

質問 改修工事で休業する予定は。

答弁 2月を休業期間としたい。

質問 今後も改修・修繕が必要となれば、将来的なハタハタ館のあり方を考える時期では。

答弁 老朽化しているが、修繕を加えながら町民が利用できるようにしたい。観光の大事な拠点として御所の台エリア再構築と併せてあり方を検討する。

質問 以前から運営が課題となっている。外部委託などの考えは。

答弁 県内でも第三セクターの解散や、民間企

業への運営委託の動きもある。情報収集し検討する。(全員賛成で可決)



3階に出来たシングルルームの稼働率は6割超えと順調。2月は改修のため休業予定。レストラン・売店・宴会は通常営業。



陳情

○安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善について国に意見書提出を求める陳情

○「18歳までの医療費窓口負担の無料化」を国の制度として実施を求める意見書提出の陳情

意見書

○安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める意見書

反対討論

山本 医療介護従事者のみ賃上げし、国が負担するのはおかしい。それにより国民の負担が増えるが、意見書の中に「利用者の負担を軽減する。」とあり矛盾するため、反対する。(賛成多数で可決)

○「18歳までの医療費窓口負担の無料化」を国の制度として実施を求める意見書 (全員賛成で可決)

▼いずれも意見書に係大臣ほかに送付しました。

賛否が分かれた議案等の採決結果

○：賛成 ●：反対

議案等	議員氏名	笠原吉範	伊藤一八	奈良聡子	芦崎達美	水木壽保	菊地薫	腰山良悦	見上政子	須藤正人	門脇直樹	山本優人	皆川鉄也	議決結果
八峰町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	議決結果には加わりません	可決
八峰町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	議決結果には加わりません	可決
令和6年度八峰町一般会計補正予算(第5号)		○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	議決結果には加わりません	可決
安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善について国に意見書提出を求める陳情		○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	議決結果には加わりません	採択
「18歳までの医療費窓口負担の無料化」を国の制度として実施を求める意見書提出の陳情		○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	議決結果には加わりません	採択
安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める意見書		○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	議決結果には加わりません	可決

ここが聞きたい

ただ 町政を質す!!

6名の議員が一般質問

一般質問

一般質問では6名の議員が町政について質問しました。

p 8 笠原 吉範 議員

- 1 旧八森庁舎跡地の
宅地無償譲渡事業について
- 2 話せる英語教育について

p 10 腰山 良悦 議員

- 1 新年度の行財政について
- 2 防災・減災対策について

p 12 伊藤 一八 議員

- 1 中学校部活動の地域移行について



↑ 議事録はこちら

掲載している内容は、広報編集委員会で要約・校正したものです。全文が掲載された議事録はホームページでご覧いただけます。

p 9 須藤 正人 議員

- 1 新年度予算編成方針について
- 2 防波堤内側海域の調査について
- 3 P T Aの入退会について

p 11 山本 優人 議員

- 1 白神山地観光について
- 2 今後の学校の在り方について

p 13 見上 政子 議員

- 1 有機畑作で農業振興を
- 2 加齢難聴者の
補聴器購入等に支援制度を
- 3 配食サービス事業の
意義を活かし拡充を

一般質問とは？

町のさまざまな課題について、議員が住民の声や自身の考えを元に、提案も含めて町の方針を問うものです。

7年度予算 財政健全化の方向性示せるか 3月定例会で議会が審議

12月議会定例会では、2人の議員から新年度予算について一般質問があり、当局から「財政健全化」を最重要事項として予算編成に取り組むとの回答がありました。3月定例会では、議会が予算特別委員会を設置し、その中身を審査・審議します。

予算と議会の関係

町が編成した令和7年度の予算案について、町民の代表である議員が「適正な予算か」「どんなことに使われるのか」などをしっかりチェックします。議会が認めないと予算は執行できません。

議会へ予算案提出までの流れ

10月～12月

1月

3月

新年度の予算編成

* 予算編成方針（予算の基本的な考え）に基づいて、予算案を担当課で作成

町長・副町長による予算査定

* 予算案に対し、副町長による1次査定と町長による2次査定（最終確認）が行われ、予算案が決定

議会による審議

* 町から提出された予算案を審議し採決

3月定例会での予算審議の流れ

開会



町長が予算編成方針と概要を説明

新年度予算案は3月定例会に提出されます

予算内容について、担当課に説明を求め審査します



特別委員会で審査※健全化が図られているか



賛成

反対

予算に対する討論・採決



適正な予算執行をお願いします

町長へ付帯意見の提出

閉会



よし のり
笠原 吉範 議員

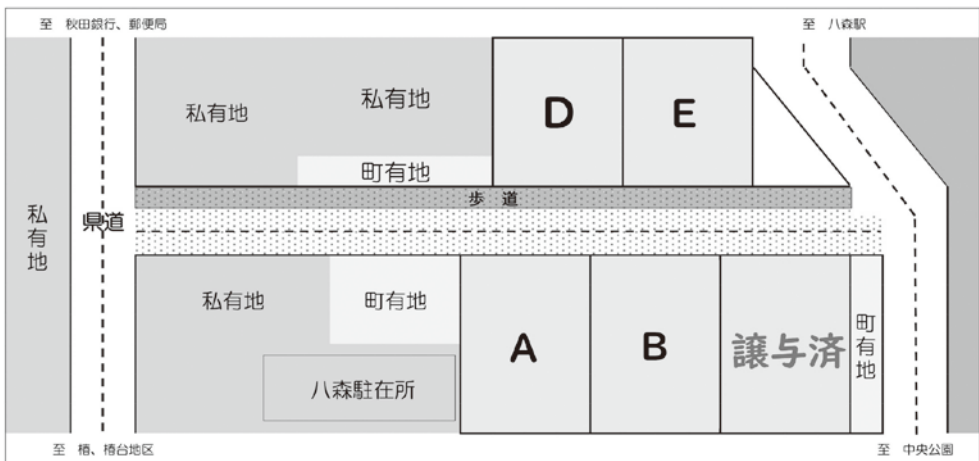
宅地無償譲渡PR不足

町長 ホームページなど
改善を図る

笠原 旧八森庁舎跡地の宅地無償譲渡事業は1区画に住宅が建設されているが、他4区画には問い合わせもないと聞いている。今後のPRの取り組みは。

町長 町内建築業者に対し住宅の新築を計画している方がいたら、当事業を紹介していただける

笠原 町ホームページのトッ プ画面から、この事業になかなかたどり着け



宅地として無償譲渡している旧八峰庁舎跡地

ない。改善が必要ではないか。また現地を見ても、看板や区画割りのロー プもない。設置の考え

町長 ホームページからすぐに検索出来ないのは、非常に遺憾。改善に取り組んでいく。また看板や区画割りについては、議員指摘のとおりだと思ふ。現地をみて検討する。

話せる英語教育で移住促進を

教育長 A L Tなど有効活用を研究する

笠原 全国どこでも、自治体でも、少子高齢化に伴う人口減少が喫緊の課題である。各自治体では「子育て支援」や「格安の住宅提供」などの施策で移住者を呼び込もうとしている。しかし、どの自治体でも大差がなく決定打となっていない。グローバル化が進む現状にあって「八峰町で子育てをすると、中学校卒業時には英語が話せるようになる」と評判になれば、移住促進対策の目玉になると考える。

町長 八峰能代沖で洋上風力発電が進められているが、ほとんどが英語で会話をしていると聞いている。今後英語力はこの地域でも大事になってくると考える。

教育長 子供たちがグローバルな社会をたくましく生きる力を育むため、英語教育の推進は必要である。

町ではA L Tを1名

無駄省き持続可能な町へ

町長 財政健全化に取り組む

須藤 予算をコンパクトにし持続可能な八峰町を築いていくべき。新年度予算方針と将来の財政に対する町長の思いは。

町長 令和7年度予算は財政健全化を最重要事項として取り組む。町単補助金等の見直しに着手したほか、新務事業の見直しや、新



岩館漁港防波堤延伸のための調査箇所

水深7mで養殖可能か

町長 県に確認する

須藤 岩館第2漁港消波堤の内海はヘドロだらけだとアワビ漁従事者から聞いた。消波堤を延伸して同じ状況になれば、アワビ漁はもう出来なくなると非常に心配していた。

深浦町の組合長からは、12mの水深がなけ

れば養殖事業は無理だと聞いているが、岩館の事業計画海域の水深は7mだという。12mは青森県の事業であり秋田県は違う、砂が堆積したら毎年浚渫するという県の説明には聞いた口が塞がらなかった。町長はこの内海の環境と消波堤延伸によ

る養殖事業をどう考えるのか。

町長 今回延伸する沖防波堤周辺では土砂の堆積が確認されていないことから、堤防延伸による環境の悪化は考えていないと聞いている。

町長 しかし不安に感じている漁業者がいること

須藤 水深7mで本当にサーモン養殖が可能なのか県に訊いてほしい。

町長 しっかり確認する。

保護者にPTA入会の説明は

教育長 総会等で説明していく

須藤 P T Aは任意団体で入退会自由だが、入会や活動内容等に関して学校からの説明はなかったと保護者から聞いた。保護者に説明はしているのか。

教育長 研修会や機会に、入会の際の丁寧な説明等を行い、適切なP T A活動となるようお願いしていく。

*「スクラップアンドビルド」

採算や効率の悪い設備や事業を廃止（スクラップ）し、新たな設備や計画などに立て直す（ビルド）ことにより、効率化・事業改善を実現すること。



まさ と
須藤 正人 議員



こしやま りょうえつ
腰山 良悦 議員

経費圧縮で

政策停滞の懸念

町長 必要な分野には

予算配分

腰山

財政の厳しさは理解できているが、経費圧縮によって住民サービスの低下や、産業振興、人口減少対策等の停滞を招き、新規事業に対しても消極的になるのではないかと。新年度の行財政運営方針は。

町長

「八峰町まじごと創生総合戦略」に掲げる4つの基本目標を踏まえた事業を、取捨選択を図りながら実施していく。
町長就任以降、財政負担を抑える工夫をしてきた。定住促進住宅整備への官民連携PPP方式採用によるコス

ト縮減や、企業版ふるさと納税寄附金を活用した農家の収入増加の取り組み推進、民間企業の知見を活かした地域活性化などにも取り組んでいる。
国庫支出金の活用や、

広告収入など町税以外の新たな歳入の確保にも取り組む。必要な分野には予算を配分し、住民サービスの低下を招かないよう持続可能な財政運営を目指す。

防災・減災力

どう高める

町長 ハード・ソフト

一体的に対策

腰山

災害が激甚化し、防災意識や地域全体の減災力を高める必要がある。土砂災害・家屋の浸水等の対策、自主防災組織の結成・活動状況や町からの支援、自主防災組織による消火栓からの放水、防災無線の活用についての考えは。

町長

大雨による河川の氾濫を防ぐため、町管理河川の浚渫工事を行ない、県にも毎年管理河川の浚渫工事を要望している。また埧川整備促進の期成同盟会を設立し、河川改修の要望書を提出することとした。
自主防災組織は現在39自治会中14自治会が組織され、それぞれ独自の防災訓練等を実施し、町は防災資機材購入や組織活動に対し補助金を交付している。消火栓からの放水は



放水にはかなりの圧力がかかる

重大な怪我に繋がる危険性があり、消防団員等限られた者のみに使用を制限している。
防災行政無線は、災害時の迅速な情報伝達及び住民の生活の安全と利便性向上のため、効果的な運用に努める。

新たな白神登山道の

整備を

町長 県や関係機関と

調整する

町長

電気・水素自動車などの活用は非常にいい考えだ。洋上風力発電の共生策と絡めて検討したい。新留山ルートは地元の自治会との調整、ネイチャー協会、ガイ

ドの会など関係機関と連絡調整を行う。新たなルート整備は県と調整を行っている。

小中学校の統廃合は

町長 小中各1校を

維持する

山本

今後の学校の在り方については、小学校の施設の場所や中学校教育、保育園の統合などの課題がある。いつ頃、何処に、どのような方法など、総合教育会議（*）で財政的・教育環境的にも最善の在り方を詰めていくことが重要であり、在り方検討会の設置が必要と考える。

ら意見を求める。

学校のあり方の課題については、定例教育委員会の中で協議している。総合教育会議は1月に開催予定としており、学校適正化検討委員会の答申を受けての対応や、再編検討委員会への諮問事項などについて協議したい。

教育長

令和6年度中に次の段階である学校再編検討委員会を立ち上げ、小学校の再編や有効的な校舎配置などを検討し、少子化に対応した中学校や子ども園の在り方についても委員か

山本

小学校統合や中学校教育事務の委託の課題についても想定しているのか。

町長

統合計画については答申と合致するが、町として小学校1校、中学校1校を維持したい。



やまもと ゆうと
山本 優人 議員



散策路延長の期待がある留山遊歩道

*【総合教育会議】

町長と教育委員会が地域の課題やあるべき姿を共有し、教育行政の推進を図ることを目的とする会議。町長・教育長および教育委員で構成される。



いとう かずや
伊藤 一八 議員

部活動地域移行の 状況は

教育長 推進計画作成を 検討

伊藤 中学校では現在8種類の部活動があり、生徒がいくつかの部に所属している。3年生が引退した後の新人戦では、野球部、男子・女子バスケット部が他校との合同チームで大会に参加した。

部員数の減少により1校単独での大会参加

や部活動存続が年々難しくなってきた。現在中学部活動で外部コーチをお願いしている部はあるのか。また、地域移行へ向け、町内含め近隣市町とどのように地域や関連団体と連携していくのか。

教育長

国では令和5年度から7年度までの3年間を改革推進期間とし、地域との連携の在り方について示されたガイドラインを作成している。県はこれを受け、令和5年度に部活動地域移行推進計画を策定した。

外部コーチは現在、男子バスケット・女子ソフトテニス・陸上競技部でそれぞれ1名ずつ依頼している。町ではこうした状況を踏まえ令和6年度より、地域部活動推進検討委員会を立ち上げ各種団体、学校関係者、保護者等で協議し、八峰町部活動地域移行推進計画作成について検討している。当面は学校部活動を維持し、部活動指導員配置による地域移行を進め、休日の部活動の地域移行を目指していく。

伊藤

町内で地域移行を進めていくのも大事だが、部員数の減少を考えると能代山本地域全体での話し合いを。また、



外部コーチのもとで練習するテニス部

来るような環境を作れないのか。

教育長

郡市内で地域クラブを立ち上げるといような話はまだ進んでいないのが現状。新年度になって単独で試合

に進むにあたっても、今までの合同練習等での部員の繋がりを大切にしていければと感じている。学校とも話し合いながら生徒にとってよりよい活動が出来るような環境を整えていきたい。

有機畑作で農業振興を

町長 課題を整理し 実現性探る

見上

児童生徒の学校給食に地場産の有機食材を提供する考えはないか。国の有機農業支援施策の活用で選任職員を配置し、「耕作放棄地に有機野菜を」と推奨し農業振興を図らないか。

町長

有機野菜を食べることは子供たちにとって大事なことである。国では「みどりの食料システム戦略」を進め、有機野菜市場や面積拡大に取り組んでいる。耕作放棄地解消に有効な対策と考えるが、多くの課題があるので情報収集に努める。



弁当配達は高齢者の安否確認にもつながる

「配食サービス」の 利用拡充を

町長 高齢者・障がい者の 支援事業

見上

調理が困難な高齢者世帯に食事指導や安否確認を行う事業であるが、二人世帯の場合申請しても受けられないケースがある。決定は高齢者サービス調整会議とあるがどのような内容か。重度身体障がい者も対象になっているが、

町長

調整チーム会議は月2回定例会が開催され、申請されたケースについて調理可能な可否・重度身体障がい者の程度について総合的に判断する。



みかみ まさこ
見上 政子 議員

加齢難聴者の 補聴器購入に支援を

町長 助成制度新設は 難しい

見上

75歳以上の高齢者7割が加齢難聴で周りの人とのコミュニケーションが難

しくなり、認知症や鬱につながるため早期発見が大事と言われている。

議会全員協議会から

11月22日(金)に開催され、1件の協議と4件の報告を受け付けました。今回は協議と報告のそれぞれ1件をピックアップして掲載します。

用語説明 全員協議会

町が新しい条例や制度、重要な施策を定める時、議会(本会議)に提出する前に議員全員に事前説明し、意見を求めるときなどに開催されます。

【協議】

奨学金月額1万円増額

町からの説明

物価高騰で、授業料等学資金及び生活費の増加が見込まれるため、町奨学金の貸与額を増額。

【主な内容】

- 大学生・高等専門学校生・専修学校生他
これまで 月額4万円以内
変更後 月額5万円以内
※高校生は、現行の月学2万円以内に据え置き。
※現在の利用者も、令和7年4月以降適用(希望確認実施)

- 償還例
これまで 年間16万円×12年
変更後 年間20万円×12年

議員から町へ(質疑・意見)

地元就職者に支援を

質疑 若者に地元に戻って定住してもらうため、給付型や特段の支援対策が必要では。

答 卒業後町内に在住する者には、償還額の補助制度を設けている。毎年償還は必要だが、償還額に対し3年間は県が3分の2、町が3分の1を、以降は町が全額補助している。

【報告】

財政の中期見通し策定

町からの説明

議会から要請のあった令和7年度から5年間の中期見通しの策定を進めているが、最近の人事院勧告や金利上昇、税制改正の影響を考慮する必要がある、提出は3月定例会前としたい。また、財政運営上の課題として次の課題があるものと認識している。

- ①人口減少による地方交付税(*)の大幅な減収
- ②固定資産税の評価替えによる税収の減
- ③洋上風力の固定資産税増収は12年度以降
- ④人件費や物価高騰による物件費の増と公共工事設計労務単価引上げに伴う公示価格の増加
- ⑤公共施設等の老朽化対策経費の増加
- ⑥金利上昇に伴う公債費(*)利払額の増加
- ⑦①・②及び⑥による財政指標(*)の悪化

議員から町へ(質疑・意見)

洋上風力による交付税への影響は

質疑 固定資産の税収が増えると、その分交付税が何%か減らされると聞くが、その比率は。

答 増収となる固定資産税の内75%が交付税から減額となり、残る25%が町で自由に使える財源。

緊縮財政を

意見

風力による増収もあるが、昨年のような災害の財源の確保も必要。
緊縮財政のなか住民の生活に関する財源をしっかりと確保するよう努めてもらいたい。

*【地方交付税】

国の定めにより町が行わなければならない事務に対し国から交付される経費。(町の税収で賄えない不足分の補填)

*【公債費】

事務事業を行うための借金

*【財政指標】

財政の弾力性(柔軟性)を示す数値。数値が低いほど余裕がある。八峰町は数値が高い。

適切な行財政運営に向けて

【当局が決算審査付帯意見回答を提出】

令和6年9月議会で決算特別委員会から提出した付帯意見に対し、町当局から回答が届きました。
(※回答は令和6年10月10日現在のもの)

決算付帯意見とは？

決算については、認定する・しないだけでは、議会の意見が十分に表明できないので、町の予算の使い方や、行政運営について付属的に付けられる意見。

意見1

災害・突発事案等に

横断的協力対応を

豪雨災害や新型コロナウイルス感染症など、その対応が突発的・長期的に及ぶ事案が発生している。一部の所管課に過重とならないよう職員間の横断的協力体制を図ること。

回答

性質や業務量に応じ

柔軟に対応

自然災害発生時の対応等については、「八峰町地域防災計画」で動員基準や各部の分掌を定めており、これに従って対応しているほか、国の臨時的事業については、所管課が課題を検討し、人員が不足する場合には、適宜、庁内で協力体制を執っている。
今後も、事案の性質や業務量に応じ、柔軟に対応する。

意見2

災害復旧工事

農林業関係早急に

豪雨災害の復旧工事では、入札に至っていない現場や不調の現場がある。基幹産業の農林業関係、早急に。

回答

発注方法を検討し

早期復旧に尽力

農林業関係は被災箇所等が66箇所あり、それを14箇所に集約し発注等行っている。

意見3

簡易水道事業方向性示せ

簡易水道は町民に必要不可欠なインフラではあるが、人口減少や施設・設備の老朽化の課題を抱えている。将来を見据えた方向性を示すこと。

回答

持続可能な水道事業の実現と丁寧な住民説明に努める

人口減少に伴う水需要の減少や施設老朽化、災害対応等、安定した事業運営に対し多くの課題を抱えている。
現在、持続可能な水道事業を実現するための指針となる「簡易水道ビジョン策定業務」に取り組み、財政面も考慮した具体的な事業内容を示す経営戦略など、その計画策定に取り組んでいる。

今後は、今年度までに策定した計画について、その概要を住民に周知することとしており、特に水道料金の改定が必要な場合には、各地区において説明会を開催するなど、水道事業の必要性について、利用者の理解に努める。

常任委員会活動レポート

先進事例を探る



八峰町議会では、他自治体の先進的な取り組みを町政に活かすため、2つの委員会に分かれて視察を行いました。
先進地の取り組みから、町の課題を解決するためのヒントを探ります。

日程

教育産業建設：10月14日～10月16日
総務民生：10月30日～11月1日

教育

教育産業建設常任委員会 視察研修報告①

話せる英語教育で

移住推進

茨城県境町



高いスキルを持ったフィリピン人英語教師が指導

●視察目的
茨城県境町では、「英語移住しませんか」をキャッチフレーズに、中学校卒業時には英語が話せるようになる教育を実践し、子育て世帯の移住促進に取り組んでいることを知った。
その取り組みの詳細を伺い、移住対策のヒントとしたい。

●視察内容
話せる英語教育への取り組みは、橋本町長が(株)アーチブゴールというALT派遣会社の存在を知ったことから始まった。
平成29年2月に同社を訪ね、同年5月にはフィリピン共和国マリキナ市と姉妹都市協定を結び、8月には話せる英語教育に特化した「スーパーグローバルスクールモデル事業」を発表した。そして、9月にはモデルケースとして境小学校で授業を開始し、翌年平成30年4月には町内全小中学校で完全実施をしている。
現在では25名のALTが在籍し、5小学校に14人・2中学校に8人・2保育園に2人・教育委員会に1人を配置し、話せる英語教育に取り組んでいる。
特筆すべきは、その財源のほとんどがふるさと納税で賄われていること。橋本町長就任前の平成25年の寄付額

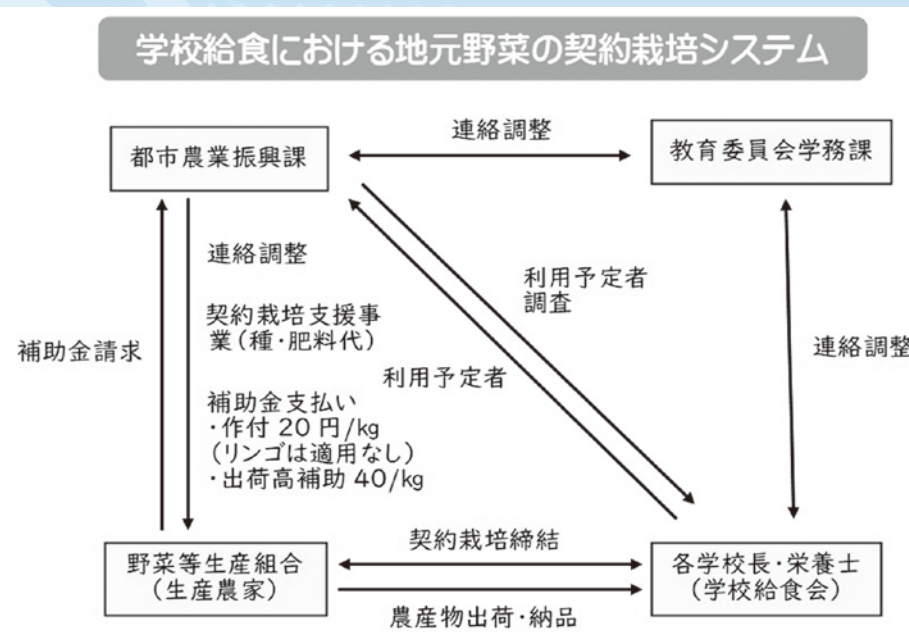
は6万5千円でしたが、橋本町長が就任すると翌26年には3千257万円、令和5年には99億円もの納税額となった。
境町では、ふるさと納税を財源に話せる英語教育だけでなく、様々な事業を展開し移住対策に取り組んでいる事に驚かされた。
●所感
とにかく驚いたのは、橋本町長の事業に対するスピード感である。就任1期目で、構想から1年余りで話せる英語教育を事業化し、狙い通りに移住者を呼び込んでいる。
最後に、さかいまちづくり公社の新井さんが言った言葉が印象に残った。「移住対策は話せる英語教育だけではだめだ。住環境の整備や子育て支援・雇用の創出などが一体となつてこそ有効になる。」まさに目から鱗の視察研修だった。

農業

教育産業建設常任委員会 視察研修報告②

次世代につなぐ地域ぐるみの農業継承

東京都日野市(都市農業振興課)



●視察目的
日野市の学校給食に関する農産物供給事業を学び、当町でも同様の仕組みづくりができないか参考とするため。
●視察内容
日野市の令和5年12月1日現在の人口は18万7486人で、その内農家戸数は273戸。典型的なベッドタウンで、多くの農地が住宅地と隣接し合いながら散在している。
おもな農産物は、野菜・果樹・花木などで、平成23年に「江戸東京野菜」に登録され、市では「日野ブランド」として栽培の継承と種の保存を支援しており、野菜農家では、ニンジン・長ネギ・キャベツ・大根・リンゴなどを中心に市内全小中学校に給食食材の出荷を行っている。

日野市では、農業振興は、新鮮で安全な農産物を供給すると共に、自然環境を享受するすべての市民にかかわる

施策として、将来の世代に継続していくことを目的とする基本理念のもと、「第一次日野市農業振興計画」を策定し、「日野市農業基本条例」を施行した。
第3次の農業振興計画では、「アクションプラン」みんなで作る「次世代につなぐ日野の農業」テーマに、安全・安心な農産物づくりと地産地消の推進のための具体的な計画が実践された。
その一つである「学校給食に日野農産物をもっと利用しよう(利用率25%目標)」について詳しく話を伺うと、学校給食における農産物供給事業が始まって今年で40年になるが、市では野菜の収穫期に合わせて11月を「ひの野菜給食月間」、11月19日を「日野産野菜給食の日」と定めている。また、野菜供給品目は令和4年で30品目で、内8品目に対し契約栽培補助金500万円余りが支援されてお

り、その参加農家数は35戸となっている。
●所感
「子どもたちに安全安心の食材を」から始まり、農業振興を通して継承へと繋ぐ。地域ぐるみの取り組みを応援している専任の都市

農業振興課職員がいることや残食が減ったことに感動した。
●報告者
笠原吉範(境町)、見上政子(日野市)



日野市の若手農業者のみなさん

地域と住民に

開かれた議会へ

議会改革検討委員会（茨城県阿見町）

●視察目的

八峰町では令和5年12月定例会後に議会改革検討特別委員会を設置した。阿見町議会では、令和2年9月に議会改革等調査研究委員会を設置し次々と新たな取り組みを実践している。阿見町議会の議会改革を学び、今後の議会運営・議員活動に活かしていく。



●視察内容
改革を行うことになった経緯
阿見町の人口は5万171人、議員定数18人。

平成27年12月22日に阿見町議会基本条例を制定し、平成28年4月1日から施行している。これまでインターネット中継、全員協議会の公開、議会報告会の開催、タブレット端末の導入など多くの改革を行ってきた。制定以降2回の選挙を経て新人議員が誕生したり、制定当時から議会を取り巻く状況も議会内部も大きく変化している。以上のことから条例に定められている条項の見直しを行うため特別委員会を設置。

新たな取り組み
議会改革アドバイザー制度を導入し、令和3年4月から令和6年3月まで特別委員会や議員勉強会、研修会で様々な意見をもらった。議員研修会にて一般

質問クリニックと題し、自身の動画を見ながら一般質問を振り返り、議員間で意見交換を行い、議員の質の向上を図っている。

議会への

住民参加の促進

議員自身がタブレット端末で町内危険箇所を動画撮影・編集し、その動画をもとに町民と意見交換会を開催。令和4年2月に議会モニター設置要綱を制定。応募いただいた方をモニターとし、議会の傍聴または視聴のほか、議会日より及び議会ホームページなどに関する様々な意見を求めた。

現時点での住民の反応
住民との意見交換会ではワールドカフェ方式(*)の採用と明確なテーマ設定を行う事で、活発な意見交換ができた。多くの意見をもらった。しかし議会報告会は参加者が減少しており、参加者の多くは40代以

上で20、30代の参加者をどう増やしていくのが課題。

*「ワールドカフェ」
カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、4〜5人ずつの少人数で行われる会議

●所感

特に議会モニター制度とワールドカフェ方式の意見交換会は直接

議員と対話できるため、議会活動の見える化にとても有効な手段と感じた。今後はさらに話しやすい場を作り出すために、参加者はスーツ禁止でお茶を飲みながらざくばらんに話せる議員カフェの実施も検討していると話してくれた。この視察で学んだ事を活かし、住民との距離を縮める場所作りに取り組んでいきたい。

文化施設

居場所がみつかる 複合施設

文化複合施設文化創造拠点「シリウス」
(神奈川県大和市)

●視察目的
令和5年3月に提出した付帯意見にもあるように、ファガスと峰栄館は老朽化により、今後多額の維持管理費が想定される。指定管



親子で遊べるフロアには保育士が常駐

利用できる交流場所、テラスがあるフロアと各階ごとにコンセプトがあり、誰でも居場所が見つかり心地よく過ごせる空間が館内に広がっていた。

●所感

市のほぼ中心に位置している大和駅から徒歩3分と好立地であり、視察当日は平日にも関わらずたくさんの利用者が思い思いの時間を



開放的な1階メインフロア

●視察内容

平成28年11月にオープンしたシリウスは、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化複合施設で、運営主体のやまとみらいは企業6社で構成されており、各企業の特徴を生かした運営をし



過ごしていた。また、施設内には歯科、コンビニ、以前からあった神社などが入居しており共存もされていた。民間主体で運営されているため、それぞれの強みを生かし各階ごとに行政のみでは出来ないようなさまざまな工夫がされており、公共施設によくある細かなルールに利用者が縛られない施設となっていた。

施設内を案内して頂

いている中で、「図書館では静かに」というイメージが覆された。学習やテレワークに集中している方、親子が広場で遊んでいる笑い声、交流スペースで飲食しながら友人と語り合っている風景を見て、全ての世代の方がここに来れば自分の居場所がみつかる場所と感じた。

●報告者

伊藤一八